

2024年12月13日

各位

会社名 株式会社シャノン  
代表者名 代表取締役 竹田 浩  
(コード: 3976 東証グロース)  
問合せ先 執行役員 CFO 兼 経営管理本部長 友清 学  
(TEL. 03-6743-1551)

**特別損益（固定資産の減損損失、関係会社株式売却益）の計上及び2024年10月期通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ**

当社グループは、2024年10月期第4四半期において、特別損失（固定資産の減損損失）の計上を行うこととなりましたのでお知らせするとともに2023年12月12日に公表いたしました2024年10月期通期連結累計期間（2023年11月1日～2024年10月31日）の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、以下の通りお知らせいたします。

1. 特別損失（固定資産の減損損失）の概要

当社グループのメタバース事業及び広告事業における固定資産について、今後の事業環境の変化や業績見通し等を勘案し将来の回収可能性について慎重に検討した結果、減損処理を行い、2024年10月期第4四半期において、それぞれ、37,298千円、41,248千円（合計78,546千円）の減損損失を計上いたしました。

2. 特別利益（関係会社株式売却益）の概要

2024年10月30日付で公表しました「連結子会社の異動（株式譲渡）に関するお知らせ」のとおり、当社の連結子会社である後藤ブランド株式会社の全株式を株式会社染谷家具店に譲渡したことに伴い、2024年10月期第4四半期において、36,611千円の関係会社株式売却益を計上いたしました。

3. 連結業績予想値について

(1) 2024年10月期（2023年11月1日～2024年10月31日）の連結業績予想と実績の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 3,275	百万円 32	百万円 30	百万円 10	円 銭 3.15
<b>実績値（B）</b>	<b>3,206</b>	<b>△51</b>	<b>△53</b>	<b>△101</b>	<b>△31.97</b>
増減額（B-A）	△68	△83	△83	△111	—
増減率（％）	△2.1%	—	—	—	—
（参考）前期実績 （2023年10月期）	2,934	△262	△273	△445	△145.68

(2) 差異の理由

①売上高の差異について

売上高については、サブスクリプション事業、イベントクラウド事業については前回予想とほぼ同水準での着地となりましたが、メタバース事業、広告事業については、それぞれメタバースイベントプラットフォーム、クッキーレス対応広告という新しいサービス分野において想定していたペースでは新市場を開拓することが出

来なかったことから新規受注が未達となり前回予想を下回る結果となりました。  
その結果、前回予想の3,275百万円に対し3,206百万円（前期比9.3%増）となりました。

（単位：百万円）

	前回予想	実績	増減額	増減率
サブスクリプション事業	2,425	2,417	△7	△0.3%
サブスクリプション売上	1,619	1,611	△7	△0.5%
プロフェッショナル売上	806	806	0	0.0%
イベントクラウド事業	490	482	△7	△1.5%
メタバース事業	58	39	△19	△33.5%
広告事業	302	267	△34	△11.4%

## ②営業利益の差異について

### （売上原価）

売上原価については、サブスクリプション事業におけるプロフェッショナル売上において、大型案件や一部のイベントクラウド事業の案件に関して、予算策定時に想定してよりも要件追加などに伴う対応工数が嵩んだことにより外注費や仕入が増加しました。

その結果、前回予想の1,146百万円に対し128百万円増加し、1,274百万円（前期比15.0%増）となりました。

### （販売費及び一般管理費）

販売費及び一般管理費については、採用の抑制等により前回予想をやや下回って推移し、1,983百万円（前期比5.0%減）となりました。

以上の結果、営業利益は、前回予想よりも83百万円減少し、51百万円の営業損失（前期は営業損失262百万円）となりました。

## ③経常利益の差異について

経常利益については、営業利益の差異の影響により、前回予想よりも83百万円減少し、53百万円の経常損失（前期は経常損失273百万円）となりました。

## ④親会社株主に帰属する当期純利益の差異について

経常利益の減少と特別損失の計上及び特別利益の計上に伴い、前回予想の10百万円の親会社株主に帰属する当期純利益に対して、111百万円減少し、101百万円の親会社株主に帰属する当期純損失（前期は親会社株主に帰属する当期純損失445百万円）となりました。

## 4 個別業績予想について

（1）2024年10月期（2023年11月1日～2024年10月31日）の個別業績予想と実績の差異

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 3,050	百万円 35	百万円 26	円 銭 8.19
<b>実績値（B）</b>	<b>3,032</b>	<b>△108</b>	<b>△192</b>	<b>△60.71</b>
増減額（B－A）	△17	△143	△218	—
増減率（％）	△0.6%	—	—	—
（参考）前期実績 （2023年10月期）	2,765	△426	△460	△150.51

## （2）差異の理由

①売上高の差異について

今回の修正としましては、基本的には、連結業績予想の修正と同様の理由により予想値を下回ることとなりました。

②経常利益の差異について

連結業績予想の修正理由に加えて、個別業績特有の要因として、株式会社ジクウに対する債権について貸倒引当金 84 百万円を計上したこと等により、前回予想の 35 百万円の経常利益に対して、143 百万円減少し、108 百万円の経常損失（前期は経常損失 426 百万円）となりました。

③当期純利益の差異について

経常利益の減少と、広告事業に関する減損損失の計上、株式会社ジクウの借入金に対する債務保証について債務保証損失引当金 59 百万円を計上したこと等により、前回予想の 26 百万円の当期純利益に対して、218 百万円減少し、192 百万円の当期純損失（前期は当期純損失 460 百万円）となりました。

以 上